朝日新聞 DIGITAL

リスキリングは「雇用されるための学習」 大人の学びはなぜ変化した

有料記事

聞き手・高重治香 2023年4月13日 14時00分

国会では、育休中のリスキリングが話題になった=写真はイメージです

「リスキリング」という言葉をよく聞くようになりました。さまざまな大人の学びの中で、今リスキリングが注目されている理由は。リスキリングをしなければ、仕事で不利になったり生活に困ったりするのでしょうか。生涯学習 論が専門の岩崎久美子・放送大教授に、2回に分けて聞きました。

――「育休中のリスキリングを支援する」という国会での首相と 自民党 議員のやりとりは、どう受け止めましたか。

「育休中に限らず、どのような状況にある場合でも自発的に学びたいと考える人に対して、国として環境を整備し、支援することは重要なことだと思います。『育休中』と一口に言っても、人によって置かれた状況も違えば、生き方や考え方も異なります。ポイントは、その人自身が学習に対する支援を希望するかどうかということにあります」

「国会での議論の詳細は分かりませんが、問題視されたのは、育休中の人もリスキリングをしなければならない、育児をしつつ将来雇用されるために必要なスキルも併せて取得すべきだ、との一律の価値観を押し付けられたように感じたからではないでしょうか」

――雇用されるために必要なスキル。確かに「リスキリング」という言葉の使われ方を聞くと、そんな感じがします。去年ぐらいからこの言葉をよく聞くようになりました。

「成人になってからの学習の目的は、自己実現のため、知的関心のため、友達を作りたいためなど、人によってさまざまです。『リスキリング』はそのような多様な学習の目的の一つです。しかし最近は、『リスキリング』に代表されるような 労働市場 に即応してスキルアップすることや、雇用を確保し維持するための道具的な学習に焦点が当てられる傾向が見られます」

――そもそも「大人の学習」が注目されるようになったのは、いつごろからなのでしょう。

「1970年前後、国際機関を中心に『生涯学習』や『 リカレント教育 』（社会人の学び直し）という言葉が提唱されるようになりました。社会的背景として、先進国の多くが 高度経済成長 を経験し、国内での進学率も上がる中で、世代間や階層間の学ぶ機会の格差をなくし、生涯にわたり自由に学ぶ機会を提供しよう、という理想主義的な思潮があったように思われます」

「日本でも、国際機関からもたらされた成人の学習に対するこの理念は、『生涯学習』という言葉により広がりました。その特徴は、 カルチャーセンター や公民館における文化的・教養主義的な学習と、企業による社内教育や 自己啓発 への補助でした」

――現在の、必要に迫られてリスキリングする雰囲気と比べると、のどかですね。

「そうですね。そんな雰囲気を一掃するようなパラダイムシフトが起きたのは、90年代になってからです」

> 日本でも、公民館などで行われる「生涯学習」が盛んだった時期がありました。そこから「雇用されるのための力」を身につける学習へと、大人の学びが収斂していった道筋と背景を語ります。

――どんなパラダイムシフトが生じたのですか。

「EU（ 欧州連合 ）は、96年を『ヨーロッパ生涯学習年』としました。若者の失業率の高さは学校で獲得したスキルの陳腐化が原因だとして、欧州の国際的競争力を高めるために、新たな知識やスキルの獲得のための継続的学習の重要性に言及するようになったのです。同様に、OECD（ 経済協力開発機構 ）などの国際機関も、成人の継続的学習の経済的効果に注目するようになります」

「知識経済（知識を基盤とした経済）にあっては、知識労働者は自ら学び続けることが必然とされ、キャリア形成の中で学習が持つ意味が注目されるようになったのです」

学び直し、リスキリング、アップスキリング……

――欧州以外の地域でもそのパラダイムシフトは起きたのですか。

「それまでは成人の教育や学習には国によってそれぞれ特徴があったのですが、経済の グローバル化 に伴い、その目的が一様に、雇用の確保・維持のための継続的学習といった方向に

収斂（しゅうれん）してきています。どの国でも、『学び直し』『リスキリング』『アップスキリング』などの言葉が、エンプロイアビリティー（雇用されるための力）を高めるための学習を指す言葉として使われるようになりつつあります」

――日本ではどうでしたか。

「日本でも生涯学習の目的が、文化的・教養主義的な学習から、労働市場に見合った新しい知識を得るための教育・訓練へとシフトしました。終身雇用制 から離脱し転職する若者が増加して、企業内教育の投資額も減り、学ぶことが個人の責任に帰されるようになりました。当初、『学び直し』はそれまでの生涯学習と同じようなものとして捉えられていたかもしれませんが、『リスキリング』は明らかに労働市場と関わる言葉と言えます」

「近年ではリスキリングの意味はさらに厳密になり、AI（ 人工知能 ）やICT（情報通信技術）のスキルを身につけ、労働力を今後必要とされる領域へと移動させる、といった意味に狭まってきているように感じます」

学習の 費用対効果 を数値化

――なぜそのように成人の学習の意味が狭まってきたのでしょう。

「背景には90年代以降、政策やその成果が、数値で表されるものにより評価されるようになったことがあります。『教育や訓練によりこのくらい生産性が上がった』という風に、費用対効果を数値化して示すことが重要視されるようになりました」

「教育・訓練が生産性の向上や経済的効果につながることを示すため、あるいは政策のための予算を獲得するために、リスキリングを厳密に定義し、その成果を数字として社会に明らかにしていくことが重要視されるようになったからだと思います」（続く）（聞き手・高重治香）

いわさき・くみこ

1962年生まれ。専門は生涯学習論・成人教育論。国立教育政策研究所などでの勤務を経て現職。著書に「成人の発達と学習」他。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.